

## 「月のかたち」(J4467) 毎日変わり続ける月のようすがわかる

藤井 旭/監修・写真 ほるぷ出版



「月」のひと月は、およそ29日。満月の日から月が欠け始めて、見えなくなった時が新月。そして、また右がわから見えてくる。見える形が変化するのを「みちかけ」<sup>すげ</sup>って言うんだって。月は毎日新しい姿を見せてくれる。今夜はどんな月が見えるかな。

「月のみちかけ」「月の出と月の入り」もあります。

## 「月夜のみみずく」(EE3)

ジェイン=ヨーレン/詩 くどう なおこ/訳  
ジョン=ショーエンヘル/絵 偕成社

雪の表面がこおるほど寒いばん、月の光があたり一面でらしてる。「みみずくにいたいならしずかにしてなきゃ」だまって歩く雪の上を月が空から見守ってくれている。冷たく澄んだ空気と月のかげやきが広がる美しい絵本。



## <さやまの100冊>



「子どものときに読みたい本100冊」(さやまの100冊)は、教育委員会がおすすめしている本です。ぜひ、読んでみてください。

図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。  
休館日や開館時間、イベント等の最新情報もこちらからご確認ください。



狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <http://www.city.sayama.saitama.jp/>



# よむぞうタイムズ 82号

3年生 4年生

狭山市立図書館 2021.12.1発行

小さなころ、お月さまが自分の後からついてくるって思ったことなかった？  
だけど月はうんと遠くにあるんだよね。  
月まで行った人はわずか十数人。  
いつか、月へ旅することをゆめみて、いまは月の本を開いてみよう。



## 「月へ」アポロ11号のはるかなる旅(EK7)

ブライアン・フロッカ/作/絵 日暮 雅通/訳 偕成社



1969年7月、3人の宇宙飛行士が地球から38万キロかなたにある月に向けて出発した。暗やみの中を進む宇宙船。目の前にだれも足をふみ入れたことのない月面がせまる。遠く離れた地球では、世界中の人たちがテレビの前で着陸のしゅん間を見守っていた。

## 「もしも月でくらしたら」(J4467)

山本 省三/作 村川 恭介/監修 WAVE出版

月は地球に一番近い星。もし、宇宙に住むとしたら、まずは月かもしれないね。それなら月のことを知らなくちゃ。外で自由に遊べるの？食べものは作れるのかな？月のひみつをさぐってみよう。



毎月23日は「家庭読書の日」 狭山市教育委員会



### 「物語たくさんのお月さま」(JS)

ジェームズ・サーバー／作  
ルイス・スロボドキン／絵 なかがわ ちひろ／訳  
徳間書店



「お月さまがほしい。」レノアひめがねだったのは、空にかがやく月。王さまは「とってまいれ」と家来たちに命じたが、みんな無理だと首をふる。頭をかかえた王さまに、道化師が思いもよらぬことを言う。

さて、レノアひめの願いはかなうのかな。

### 「おつきさまのやくそく」(JP1)

いとう ひろし／著 講談社

おとうさんの帰りがおそい夜、ひとりぼっちでいるすばん。もう夜なのにまどの外が光ってる。カーテンを開けると、ベランダにおつきさまが立っていた。いっしょにご飯を食べたり、遊んだり。「おつきさまとふたり」ですごした、すてきな夜の物語。



### 「月からきたトウヤーヤ」(JA)

肖 甘牛／著 君島 久子／訳 岩波書店

月からやってきたおじいさんにわらじを作ったおばあさん。おれいにもらったトウモロコシの種から男の子が生まれてきた。「トウヤーヤ」と名付けられた子は、やがてりっぱに成長し、おばあさんの病気をなおすために金の鳥を探す旅に出る。中国チワン族のむかし話。



### 「ぞくぞく村のおおかみ男」(JD)

末吉 暁子／作 垂石 真子／絵 あかね書房

歯医者さんのちくちく先生は、満月の夜になると元気いっぱいのおおかみ男に変身する。ところが一年前から、ときどきぶた男になっちゃうんだ。「ぶたになったりしたら、ご先祖様にもうしわけない。」いったい、ぜんたい、どうしたわけだ？



### 「三日月村の黒猫」(JP)

安房 直子／作 司 修／絵 偕成社

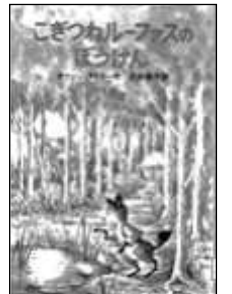
おとうさんの洋服店が倒産して、ひとり家に残されたさちお。知らない人がお金を返してほしいとつぎからつぎへとおしかける。泣きそうなさちおが顔をあげると、三日月村から来たという黒猫が立っていた。「あなたをたすけにきましたよ。」



### 「こぎつねルーファスのぼうけん」(JS)

アリソン・アトリー／作 石井 桃子／訳 岩波書店

森でアナグマにひろわれたルーファス。新しい家族とのくらしは楽しいけれど、ちょっぴりぼうけんしてみたい。「ぼく、きけんだいすき。」こっそり家をぬけだして、月夜に川で魚釣り。月の光と星をつりあげて、拾ったボートを運んでいたら、悪い大ギツネにつかまった。絶体絶命の大ピンチ！



「こぎつねルーファスとシンデレラ」(JS) も読んでね。